

# 「日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG)」 研究業績リスト、2000

## List of Research Achievements of the Japan Charged Particle Reaction Data Group, 2000

「日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG)」編集委員会

Editorial Committee,  
Japan Charged Particle Reaction Data Group(JCPRG)

### abstract

Below are listed the research activities of the Japan Charged Particle Reaction Data Group(JCPRG) carried out in 2000 school year.

## 1 はじめに

「日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG)」は、1974年から、「荷電粒子核反応データファイル(NRDF)」の作成と公開のための活動を開始した。1978年度以降は、文部省(文部科学省)より事業費を予算化して頂き、JCPRGとしての恒常的な管理運営を展開している。この場を借りて文部科学省に感謝の意を表するものである。

JCPRGは、1994年度までは主として北海道大学大型計算機センタを利用して、NRDFデータベースを作成し、更に、作成したNRDFファイルを「原子核反応データ交換書式(EXFOR)」ファイルに変換することによって、国際原子力機関(IAEA)の原子核データ部門(NDS)を中心とする原子核データセンタネットワークの一員として、原子核反応データベースの構築と公開・配布に国際的責任の一端を担っている。1995年度からは、北海道大学ベンチャービジネスラボラトリ(VBL)の協力を受け、IntelligentPadによるNRDF利用環境構築(CONTIP)を開始した。1996年度にはWWWホームページ上でのNRDFの公開も開始し、現在NRDFシステム全体の管理・運営と利用の中心が、北海道大学大型計算機センタからWWWホームページとCONTIP(CD-ROMによる利用形態含む)へと移行しつつある。2000年度にはIAEAのNDSから、Otto Schwerer氏

を迎えてシンポジウムとワークショップを開催した。シンポジウムでは、日本における NRDF データベース活動と、IAEA の NDS の活動及び原子核データセンタネットワークにおける EXFOR の役割について相互認識と相互理解を図った。ワークショップでは、Schwerer 氏との共同作業として、NRDF 書式から EXFOR 書式への変換作業に伴う諸問題を検討し、NRDF のデータベースの多様な核反応データが国際的に有効に活用されるべく議論を深めた。

次章には、2000 年度における JCPRG の研究活動の業績を紹介する。

## 2 2000 年度 JCPRG 研究業績

### 2.1 国際会議等での講演と予稿/報告論文

#### 1. Yoshihide Ohbayasi:

”Study of Retrieval, Utilize and Circulation System for Nuclear Data in Computerized Media”, JAERI-Conf 2001-006 3.37

### 2.2 大学における紀要等

#### 1. 大久保倫理:

「IntelligentPad 上での数値データの可視化に関する研究」 北見工業大学情報システム工学科核情報研究室、平成 12 年度卒業論文

#### 2. 片山英親:

「知識メディアとしての Exfor 検索インターフェースの研究」 北見工業大学情報システム工学科核情報研究室、平成 12 年度卒業論文